

平成30年9月25日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）生徒数が2年連続して80名を下回った県立高等学校について

1学年1学級規模の11校が、長年、学校の活性化に向けて取り組み、成功や失敗経験を積み重ねた結果、ある程度の知見が得られてきたものと思われるが、これまでの取組をどのように分析しているのか。また、これまでの知見を踏まえ、下回った2校に対して、具体的にどのように対応していくのか、併せて教育長に伺う。

（答）

1学年1学級規模の高等学校におきましては、平成26年度から、学校関係者や地域関係者、市町等で構成する「学校活性化地域協議会」において検討された活性化策に基づき、地域の皆様方や市町から様々な御支援をいただきながら、

- ・ 地域に貢献する課外活動や地域について学ぶ教育課程の実施
  - ・ 特色ある教育活動やクラブ活動の実施
  - ・ 学力向上のための学習支援塾や公営塾開設
- などについて積極的に取り組んでまいりました。

こうした取組により、

- ・ 学校全体が活気づいてきている学校や
- ・ 学校の新たな魅力の創造や

更なる活性化が図られ、地元中学校や県外も含めた広域からの入学者が増加するなど、成果が着実に表れてきている学校もある一方で、取組の成果が生徒数の増加に十分に結びついていない学校もございます。

成果が着実に表れてきている学校におきましては、学校の活性化に向け、早くから学校と地域が一体となって、中・長期的な視点に立ち、戦略的に取組を行ってきており、各学校において、それぞれの実情を踏まえ、こうした取組を進めていくことが、極めて重要であると考えております。

全校生徒数が2年連続して80人未満になりました大柿高等学校及び瀬戸田高等学校におきましても、平成31年度の全校生徒数が80人以上となることを目指し、地元市からのより一層の支援をいただきながら、地元中学校との連携の強化や地域と学校が一体となった教育活動の充実など、学校の活性化に向けた取組を進めていくこととしております。

教育委員会といたしましては、この2校に対して、関係課の職員が集中的に学校を訪問し、教科指導や生徒指導、学校運営などについて必要な指導・助言を行うとともに、学校の状況を事務局内で共有しながら、関係課が一体となって、学校の更なる活性化や次年度新入学生徒の確保に向けた取組を支援してまいりたいと考えております。